

# 国道357号上部空間を活用したにぎわい創出について

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所 管理第一課

## 1. はじめに

昨今、道路に対する利活用ニーズは多様化しており、歩行空間の拡大や沿道施設と一体となった整備及び利活用など、居心地が良く歩きたくなるまちなかの実現に向けたニーズへの対応が求められています。

また、国土交通省の道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」では、「人々の幸せの実現」を目標とし、“歩行者が滞在し交流するにぎわい空間機能を「回帰」させることが求められている”と提示されています。

JR千葉駅や千葉みなと駅からのアクセスが良い国道357号の千葉市役所・千葉銀行本店前には、車道の地下化により全国的にも珍しい広い上部空間（以下「上部空間」という。）が創出されており、千葉市・千葉銀行・千葉国道事務所の3者（以下「3者」という。）で、上部空間をまちづくりやにぎわい創出に活用する方策について、連携して取組を行っています。



図01 上部空間の位置図



千葉銀行本店前



千葉市役所前  
写真01 上部空間

## 2. 上部空間に関する整備について

### 1) 上部空間が生まれた経緯

国道357号は、千葉県を起点に東京・川崎・横浜の臨海部を経て横須賀に至る主要幹線道路です。千葉市の市役所前交差点と登戸交差点を結ぶ区間は、国道を挟んで鉄道やモノレールの駅、市役所等の都

市機能が集中し、主要な交差点が短い間隔で連続しているため、これまで朝夕を中心に著しい渋滞が発生し事故が多発していました。

このため、交通渋滞緩和・交通安全の確保や道路ネットワーク機能の強化を目的として、平成17年度に市役所前交差点と登戸交差点間の車道の地下化に着手し、平成27年には車道の地下立体が開通しました。通過交通である車道本線の地下化により、地上部の車道は片側3車線から1車線へとなり、地下立体の上部に広い上部空間が創出されました。



写真02 地下立体前の渋滞状況



図02 上部空間の整備前後



写真03 上部空間の状況 (R3.12撮影)

## 2) 地下立体開通後の上部空間環境整備

地下立体完成後、植栽配置等上部空間の利活用に向けた検討を行ったものの、実施主体などが定まらなかったため、当面は維持管理に配慮しつつイベントなどの開催に寄与する空間とすべく、市役所前のコンクリート舗装や、登戸交差点付近の広場整備などの短期整備を行いました。



整備前



整備後

写真04 市役所前のコンクリート舗装



整備前



整備後

写真 05 登戸交差点付近の広場整備

### 3. 3者の本格的な連携

#### 1) 国道357号におけるにぎわい創出に向けた包括連携協定

上部空間の短期整備後、利活用に向けた動きは暫く停滞していましたが、千葉銀行では本店ビル建て替えが進展し、千葉市では東京オリンピック・パラリンピックの盛り上がりを受けたスポーツイベントの機運が高まりつつある中で、上部空間の利活用が再び注目されるようになりました。

この動きを一過性とせず、上部空間を活用したまちづくり・にぎわい創出等の活性化に向けて継続的に連携して取り組むべく、令和4年10月に3者で包括連携協定を締結しました。



写真 06 3者による包括連携協定

#### 2) 社会実験イベント (STAYSTREET)

上部空間は、駅から近く利便性に優れる反面、周辺に商業施設や学校などがいないため、日常的に多くの人が行き交う空間とはなっていません。

そのような立地環境にある上部空間を活用して賑わいを創出するためには、遠くから商業施設等を求めてやってくる来訪者はターゲットとなりにくいいため、地域の方々が身近な空間としてどのように利用したいのかというニーズを適切に把握し、人が集まり賑わいが生まれる仕掛けづくりを考える必要があります。

そのため、近傍に居住する家族連れを主なターゲットとし、来訪者が休んだり遊んだりできる空間をつくり、滞留性を得ることで上部空間利活用の方向性を探るべく、社会実験イベント（通称：STAYSTREET）を現在までに2回実施しました。（1回目令和4年11月、2回目は令和5年5月。）

##### ① 令和4年11月実施

11月3日（木・祝）から6日（日）までの4日間、「みちが、緑いっぱい芝生と楽しいたまり場に！」をテーマに社会実験イベントを開催しました。

上部空間のコンクリート舗装へ人工芝による広場を設けたほか、キッチンカーやマルシェの出店に併せてベンチを設置し、「たまり場」を用意しました。

また、上部空間のアスファルトへのチョークでお絵かき体験や自転車教室・パラスポーツ体験など

親子が楽しめる催しも用意しました。

近傍で開催された大規模イベントとの相乗効果もあり多数の方に来場頂き、ゆったりくつろげる空間を設けることで利用者が滞留し、体験イベントの実施により親子が楽しめる空間にもなることが確認できました。



通常時のコンクリート舗装



社会実験時の芝生広場



ゆったりくつろげる芝生広場



キッチンカー・マルシェ

写真 07 令和4年開催の社会実験イベント

## ② 令和5年5月実施

5月19日（金）と20日（土）の2日間、「みちが楽しい たまり場・遊び場に！！」をテーマにイベントを開催しました。

この社会実験イベントではコンクリート舗装は人工芝ではなくチョークのお絵かき体験とし、体験もパラスポーツに加えてBMXやスケートボードといったストリートスポーツ体験を取り入れ、遊び場を前面に出しつつ、来場者のニーズに応える形で、前回のイベントで好評を博したキッチンカーやマルシェの空間を拡げ、ベンチと人工芝を設置しました。

前回のような大規模イベントとの同時開催ではありませんでしたが、程よい数の来場が有り、親子連れで遊びの体験をしつつ、キッチンカーやマルシェを楽しみながらベンチや人工芝で滞留頂けたことで、日常に近い環境でも条件が整えば上部空間の利活用は可能であることが確認できました。



コンクリート舗装へチョークでお絵かき



キッチンカー・マルシェは人工芝を拡張



ストリートスポーツ体験



ベンチを増設し滞留性を確保

写真 08 令和 5 年開催の社会実験イベント

1 回目、2 回目の社会実験イベントで実施したアンケートでは、7 割超の来場者から満足という回答が得られました。また、来場者はイベント会場の千葉市内在住の方が 8 割程度。同行者の属性は家族、親戚と一緒にが 7 割程度、そのうち小学生以下の子ども連れが 9 割超えとなっており、30～40 代の子育て世代の家族連れの来場が多数であったことから、当初狙ったターゲットが満足頂けたことで、今後の上部空間利活用の有効性を確認することができました。

3) 上部空間利活用の具体化に向けた検討

これまでのイベントを通じて上部空間利活用の有効性を確認できましたが、上部空間利活用に向けての機運醸成や、課題やニーズの把握を行うためには、継続してイベントを開催することが必要となります。また、その際には、事前に 3 者のイベント計画を共有することで錯綜の防止や相乗効果が期待され、実施結果を共有することで課題の把握や効果的な対応方針の立案が可能となります。

イベントを通じて得られるこれらの知見を活かして、持続的・発展的な地域活性化に寄与するための制度的枠組みを検討することが重要であることから、3 者で継続して議論を行い、本来の目的である、まちづくり、にぎわい創出等の活性化の在り方を検討しています。

## 4. 今後の取組について

上部空間周辺は主にオフィス街であるため、今後上部空間の利活用を図るにあたっては、地域の住民や民間事業者と一体となった取組や上部空間における利活用の活動を行う者（担い手）を見つけ出すことが、これからの課題となっています。

今後の対応案としては、社会実験イベントにおいて、沿道の具体的な活動（担い手）を募集することなどがあげられますが、地域の住民や民間事業者と一体となった取組を取り込むためには、上部空間の沿道敷地内において、地域のニーズに合った質の高い一体的な空間形成を進めていくことも必要となります。

また、上部空間エリア周辺は千葉市の「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」で公共空間の利活用に位置づけられていることや、千葉市が主催する地域活性化イベントが行われていることから、相互の取組み等を共有するなどして、一体的な連携を図っていくことも有効ではないかと考えています。

## 5. おわりに

近年、道路空間の利活用を巡るニーズは多様化していますが、道路はあくまで「舞台」であり、そこで活動する地域の方々の取組みが一番重要となります。道路管理者としては、それを最大限支援するという考え方です。このため、上部空間の利活用にあたっては、民間の創意工夫を活用した空間作りが可能となる、歩行者利便促進道路制度（通称：ほこみち）の活用も見据えつつ、検討を進めていきたいと考えています。